

第2回 調布飛行場整備検討会

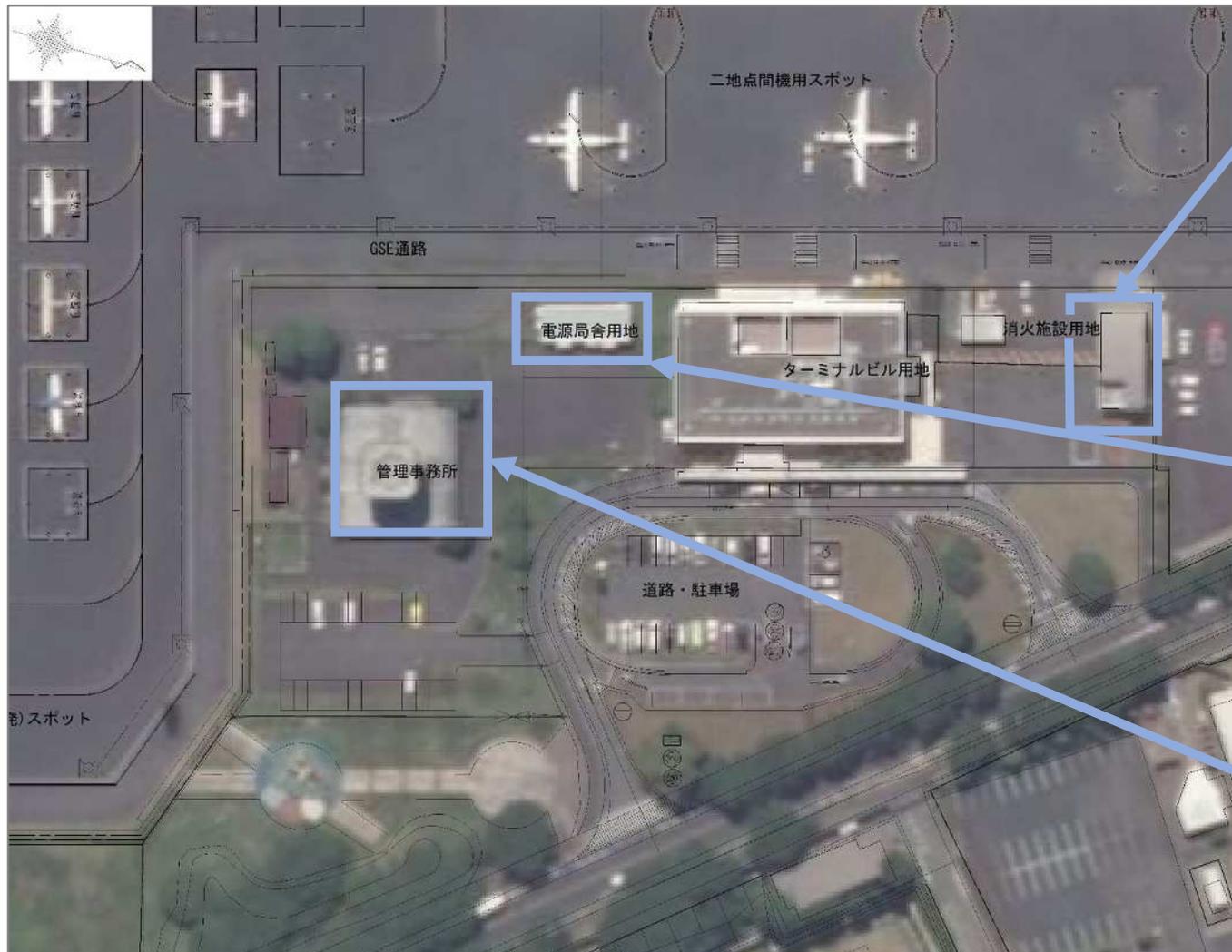
各種施設の状況

令和7年1月

1. 現在の各施設の更新必要性

各施設の配置状況

- ターミナルビルの南側に電源局舎及び管理事務所、北側に消防車庫、東側に駐車場が配置されている。



事務所兼管制塔の状況

- 飛行場を国が管理していた時期から利用しており、築40年以上経過し劣化の症状がみられ始めている。
- 災害時等における飛行場の業務継続の観点から、飛行場管理者や情報提供担当者が常駐できるよう、仮眠室の充実、男女別の更衣室の設置が必要
- エプロン両端にブラインドエリア（直接見通しが確保できない場所）があり、現在は監視カメラにて対応している。



電源局舎・消防車庫の状況

- 正式飛行場化の際に整備された電源局舎及び消防車庫は、築25年程度経過しているが、現時点では一部の設備を除きおおむね健全な状態である。
- 両施設は飛行場の安全な運営に必要な施設であり、計画的な更新に向けて検討を行うことが望ましい。
- 消防車庫は施設が狭隘であり、プレハブの詰所を横に設置している。



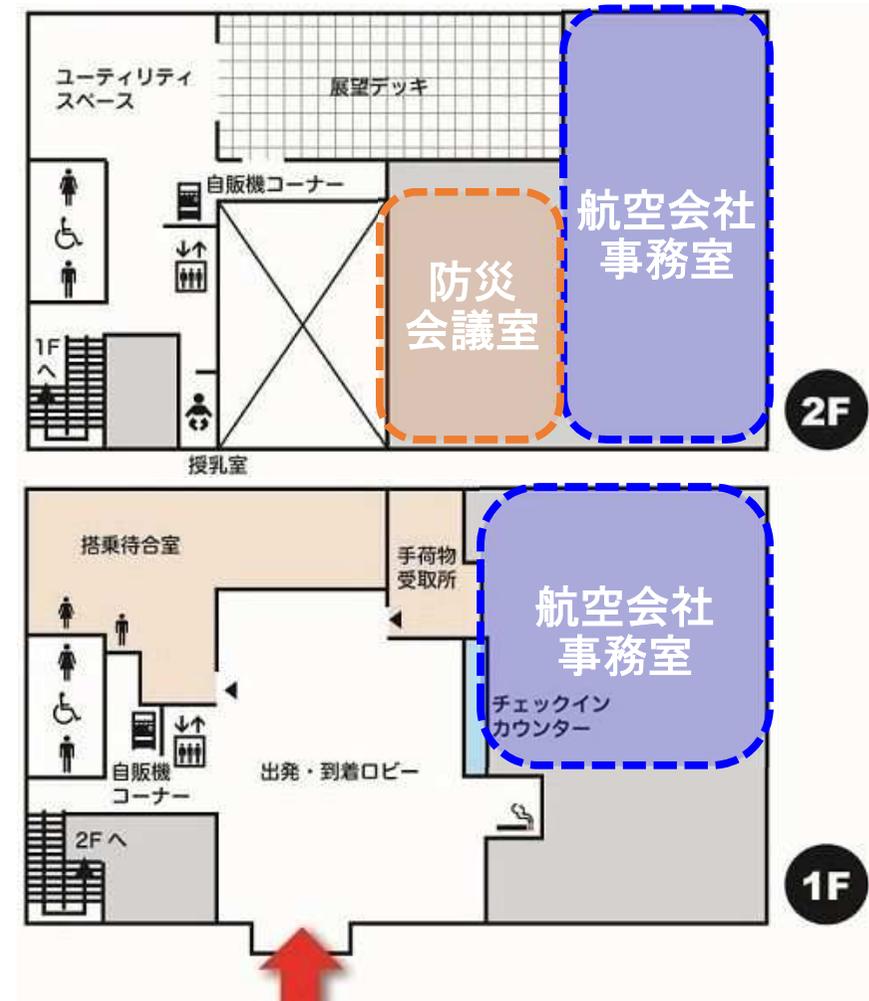
【電源局舎】



【消防車庫】

ターミナルビルの状況

- ターミナルビルは2013年に供用開始し、老朽化に伴う施設更新は不要
- 旅客取扱施設の規模については、現時点で特に問題はない。
- 新中央航空の事務所は供用開始後の路線開設や働き方改革等により、30名程度から50名程度に増員したが、面積が変わっていない。労働環境改善のため、面積増が必要



2. 施設整備に当たっての論点

施設整備に当たっての論点整理

- 施設整備の検討に当たり、以下の点に留意する必要がある。

1. 用地の確保

- 管制塔等の建て替え用地の確保には、エプロン（駐機場）等のエアサイドの縮小が必要となる可能性がある。
- 地域航空の拠点としての機能を発揮するために必要なエプロン面積を検討・確保した上で、エプロン縮小に伴う運用ルールの検討が必要

2. 供用しながらの工事

- 管理事務所（管制塔を含む）、電源局舎、消防車庫は空港運用に必要な施設のため、供用しながら建て替えるためには、新たな場所に新築してから現施設を撤去する必要がある。
- そのため、計画的な段階整備が必要である。

3. 地域住民に配慮した施設整備

- 空港利用者だけでなく地域住民の利用を目的とした利便施設等の整備を検討する。
- その際、民間企業の活力の導入が考えられる。